

高野新聞

Vol.120



たかの
高野たけし

無所属 51歳

逗子市議会議員（6期）

- ・総務常任委員会委員
- ・議会運営委員会委員
- ・都市計画審議会委員

高野たけしの活動報告

～住みやすいまちづくりに向けて～

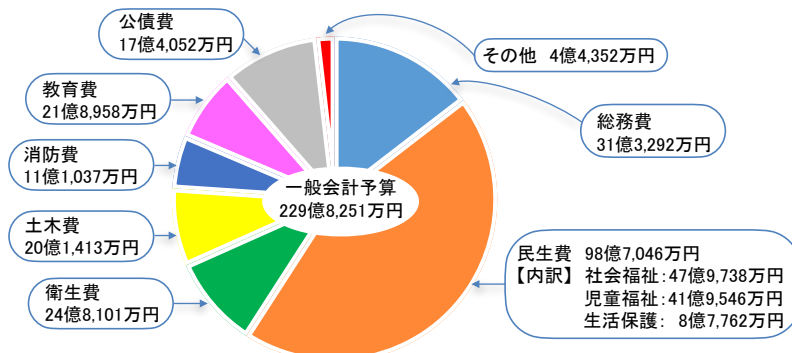
逗子市の令和6年度の当初予算総額は404億5,754万円（一般会計229億8,251万円、特別会計147億2,150万円、公営企業会計27億5,353万円）となっています。

歳入では根幹をなす市税収入が減収見込み（前年度比－1億9,041万円）となりましたが、これは定額減税の影響が大きいと考えられます。

また、歳出では義務的経費に占める扶助費の割合（43.9%）の高さが目立ちます。少子高齢化を背景に、10年前と比べると10.1ポイント上昇していることから、この上昇率をいかに抑制していくかがこれからの課題と言えます。

今後は住んでみたい、住み続けたいと思われる施策の拡充を図っていくとともに、市民の健康増進に即した事業を展開していく必要があります。

～ 令和6年度一般会計予算 ～



● 総務費 ● 民生費 ● 衛生費 ● 土木費 ● 消防費
● 教育費 ● 公債費 ● その他 ※その他は議会費・農林水産業費・商工費・予備費

政治資金の残り 20,109円

（令和5年12月～令和6年2月の内訳）

支出・・・行政視察交通費 2,650円

令和6年度の新たな取り組み

*子育て中のママ・パパをサポート!!

産後1年未満の母と子が自宅で安心して過ごせるよう、助産師等による専門的なケアサポート体制を拡充。
保護者が疾病や仕事などで一時的に養育が困難になった時に利用できる短期入所、夜間養護事業をスタート。

*多世代間の交流機会と賑わいを創出!!

JR東逗子駅周辺の利便性の向上と活性化を図るため、駅前用地に公共施設を集約した複合施設を整備。
令和9年度の供用開始に向け、来年度は基本設計に着手。

*令和7年3月から分別処理をスタート!!

環境負荷の軽減と処理経費の圧縮を目的に、葉山町と連携して生ごみの分別処理を開始。

*カーボンニュートラルへの挑戦!!

脱炭素社会の実現に向け、公用車の電気自動車化や公共施設への太陽光発電設備等の導入を推進。

*海業を通じてワクワクを発信!!

海業振興モデル地区に選ばれた小坪漁港において、漁業体験、遊漁船クルーズ、漁港市場などのイベントを開催するとともに、地場海産物の魅力を発信。

～ 視察レポート・自動運転バス ～

地方自治体で初めて自動運転バスを導入した茨城県境町へ視察に行ってきました。境町は茨城県の西南部に位置しており、市の面積は46.59㎡、人口は約24,000人の町ですが、町内には鉄道路線がなく、高齢化が進んでいく中で誰もが生活の足に困らないようにするため、2020年11月25日に自動運転バスの運行を開始。車両は世界での運行実績があり、狭い道路にも適しているフランス製のNAVYA社製・ARMA(フル充電で約200km走行でき、同乗するオペレーターを含め11名が乗車可能)を選択したとのことです。時速15キロ程度で、2ルート(停留所は17箇所)、1日18便を運行中。予約なしで無料で利用できるとあって、住民の足として活躍しています。境町の場合、車両3台の導入と5年間の運行に必要な5.2億円の経費のうち国の補助金で半分を、残りの半分をふるさと納税(今年度のふるさと納税額は80億円を超える見込み)などで賄う形態で運営しているそうです。

また、安全面においては町内のコントロールセンターで車内を常時監視。急ブレーキや緊急停止ボタンが押された際、乗客に転倒などが見られた時は常駐スタッフが駆け付けられる態勢をとっているとのこと。

境町の取り組みは非常に魅力的ではありますが、継続的な運行を考えると国の補助金に加え必要となる自主財源をどのように捻出するかが大きな鍵になります。逗子市内の新たな地域交通の構築に向けて、今回視察させていただいた境町をはじめ全国の先進事例なども参考にしながら、引き続き行政当局と議論を進めていければと思っています。



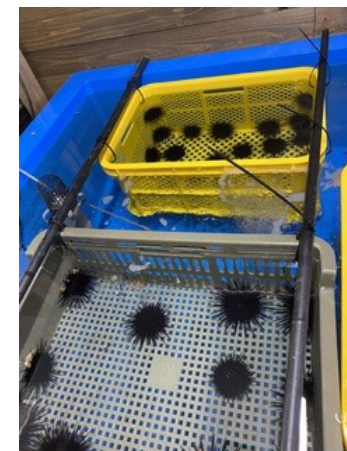
Topics

地元の高幸建設株式会社が、小坪マリナーの一角に設置した保冷車の中でカジメの種苗の陸上養殖に取り組んでいます。大型海藻培養技術を用いると1ヶ月程度で約30cmに成長することが確認できたため、今後は成長したカジメを岩礁に移植し、台風や海水温の上昇などによる影響を観察して



いくフェーズに移るそうです。そして将来的には、養殖施設である程度育てたのち海上の大型筏に移し、成熟してきたら岩礁上に移動して孢子を広く散布させる間接的移植まで辿り着きたいとのことでした。

また、保冷車内では近隣で採れたウニの蓄養も行っており、4ヶ月～6ヶ月ほどでかなり身が増えるとのこと。ただし、現在のような小型カゴであれば全てのウニに餌が行き渡るのですが、大型カゴ(300個体程度)で行うと摂餌に偏りがあり、1割程度しか育たないことも。大量養殖の手法はこれからの課題の一つになっているそうです。今回4ヶ月ほど蓄養したウニを食べさせて頂きましたが、とてもクリーミーな味わいで、匂いが少なく苦手な人でも食べやすいのではと感じました。



近年、本市近海でも磯焼けが問題となっていますが、こうした取り組みによって海洋環境の改善が図れることを期待するとともに、水産資源の有効活用の観点から蓄養ウニの商品化についても楽しみにしているところです。

あなたの声を高野たけしへ

Tel / Fax:046-871-7368 E-mail:takano_zushi@yahoo.co.jp

高野たけしの活動
ブログはこちらから

